

わくわく中国文化



—三国志から四字熟語を勉強しよう⑤—

Illustration by [KOH_HSL](#)(instagram)

著者の一言



皆さん、四字熟語は難しいと思いませんか。中国語の四字熟語の多くは古書や典故から来ています。その由来を知っておけば、四字熟語も覚えやすくなると思います。今年度は日本でも有名な中国の「三国志」に関する四字熟語を紹介したいと思います。中国語をもっと上達させたい人や三国志に興味を持った人や四字熟語をもっと身につけたい人にふさわしい内容をたっぷり載せますので、ご覧いただければ幸いです。

寡不敌众(guǎ bù dí zhòng)

汉语成语，“寡不敌众”指战争中人员数量处于劣势的一方难以抵御人数占优的对手，其核心语义源自《孟子·梁惠王上》“寡固不可以敌众”的经典论述。多用于军事对抗或势力博弈的语境。《三国演义》第十五回“王朗寡不敌众”的战场描写中也出现过。

「衆寡敵せず（しゅうかてきせず）」

四字熟語です。「衆寡敵せず」とは戦争で人数が少ない側は多いほうにかなわないことです。この四字熟語は『孟子・梁惠王上』の「寡は衆に敵すべからず」から出たものです。軍事的対抗や勢力間の博奕を背景とした場面で多く使われます。『三国演义』第15回に「王朗は衆寡敵せず」という戦場の描写が書かれています。



▲『衆寡敵せず』 / (Baidu)



甘
宁
李
兴
霸

▲『甘寧』 / (Baidu)

谈笑自若(tán xiào zì ruò)

“谈笑自若”的意思是能平静地对待所发生的情况，说说笑笑，不改常态。成语有关典故最早出自于《三国志·吴书·甘宁传》。讲述甘宁被魏军围城，死伤无数，将士们都有些紧张和害怕。但是只有甘宁还和往常一样，谈话笑容非常自然，一点都不紧张恐惧。

「いつも通りに談笑する」

(緊迫した状況の下でも)いつものとおりに話したり笑ったりすることです。この四字熟語は最初『三国志・呉書・甘寧伝』から出たものです。甘寧が率いた孫権軍は曹操軍に城の中を囲まれていました。死傷者が数多くて、将士たちは少し緊張して怖がっていました。それに対して、甘寧1人だけは全然緊張せず怖がらず、いつも通りに話したり笑ったりしていました。

割发代首(gē fà dài shǒu)

该成语出自于罗贯中《三国演义》第十七回。

曹操行军时规定，士兵不得践踏麦田，否则斩首。但他自己的马却因受惊踏了麦田，曹操要自刎，被众人劝阻，于是割下自己的头发代替首级。

这则成语字面意思是把头发割了代替砍头。古人讲究身体发肤受之父母不可毁伤，割发可以算是不孝之大罪，所以曹操就在军前割发代首以明军纪。



▲『首切りの代わりに髪を切る』 / (Baidu)

「首切りの代わりに髪を切る」

この四字熟語は『三国演义』第17回から出たものです。曹操が軍を率いて行軍中、自身の定めた軍律で「麦畑を荒らした者は斬首に処す」と厳命しました。しかし、曹操自身の馬が驚いて麦畑に踏み入ってしまい、軍律違反となります。曹操は「法は天子から出たものでも、自ら犯せば罰せられるべきだ」と言って、自らの首を刎ねようとするとき、部下たちに制止されました。それで、代わりに髪の毛を切り落とすことで責任を果たしました。

この四字熟語の表面上の意味は首切りの代わりに髪を切るということです。昔の人々は髪の毛や皮膚を含める体全体は親から受け継いだ大切なものなので、おいそれと傷つけるものではありませんでした。そのため、髪を切ることは斬首に次ぐ重い処罰、あるいはそれに代わる償いに見なされて、曹操は将士全員の前で自ら髪の毛を切り、軍律を厳正に守る姿勢を示しました。



兵贵神速(bīng guì shén sù)

该成语最早出自于《三国志·魏书·郭嘉传》。兵贵神速指用兵贵在行动迅速。也泛指处理问题贵在迅速，果断。

公元206年，曹操决定亲自率兵征讨北方三郡，消除边患。曹军走了一个多月才到达河间的易城（今河北雄县西北）。谋士郭嘉对曹操说：“用兵贵在神速，使敌人难以预料。我们应当把辎重留下，派轻兵日夜兼程，深入敌境，出其不意发动进攻，这样才能取胜。”

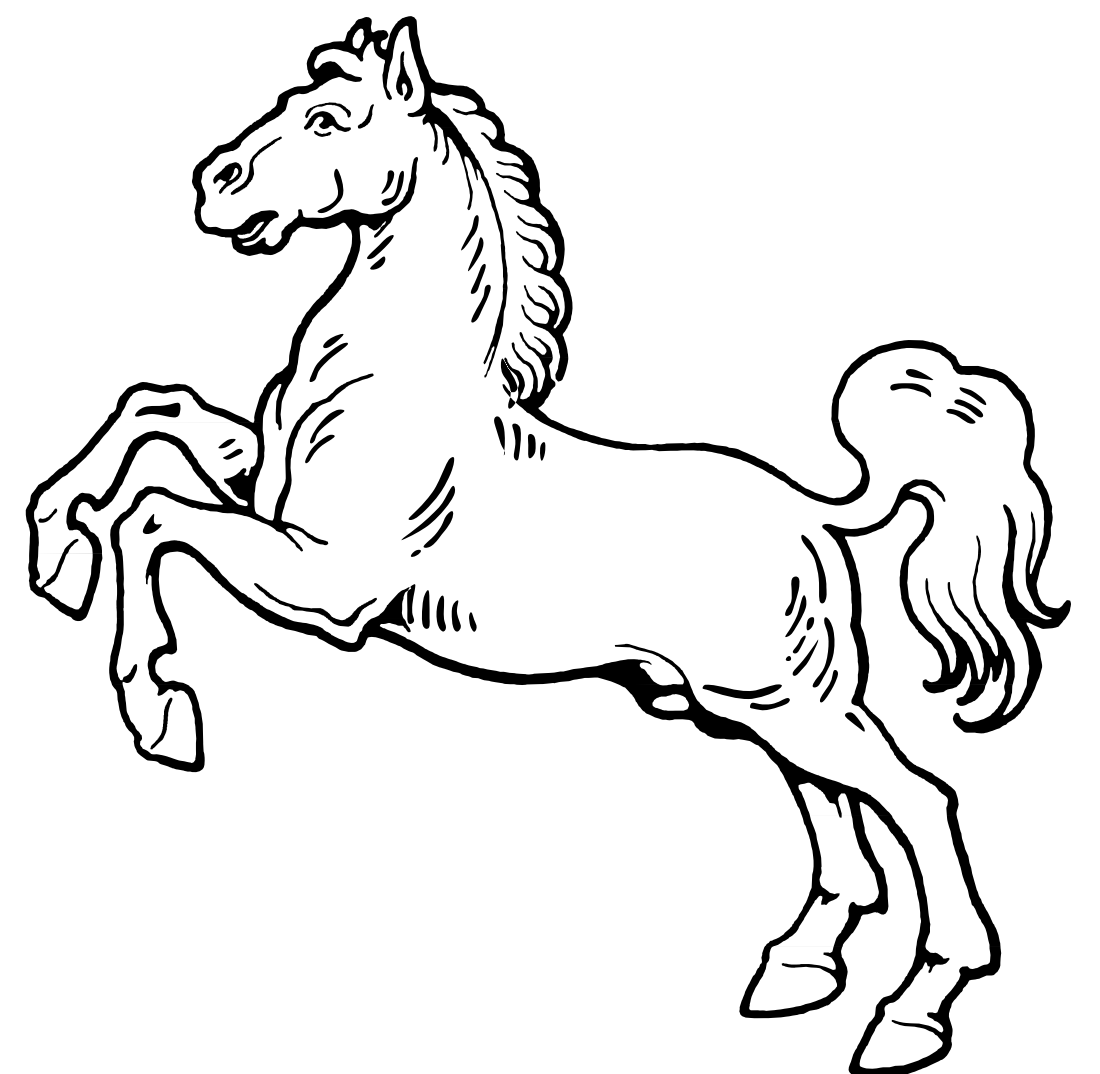
曹操采纳了郭嘉的建议，亲自率领数千精兵轻装北进。在距离柳城还有一百多里的白狼山，曹军与蹋顿的数万骑兵相遇。双方兵力相差悬殊，曹军将士以一当十，士气高昂，奋勇杀敌。蹋顿军队大败，蹋顿和许多将领都死于乱军之中。

「兵は神速を貴ぶ（へいはしんそくをたつとぶ）」

この四字熟語は最初『三国志・魏書・郭嘉伝』から出たものです。戦争では兵の動かし方の素早いことが最も大切であるということです。現在では、果断で迅速に問題を片づけることは最も大切だということを示します。

206年に曹操は、自ら軍を率いて北方三郡に遠征して、隠れた危険を取り除くことを決めました。曹操軍は非常に長い距離を遠征していて、一か月あまり行軍してやっと易城（現在河北省雄県北西部）に辿り着きました。軍師の郭嘉は曹操にこう進言します。「兵は神速を貴びます。我が軍は多くの輜重（しちょう）を携え、長い千里の道を移動してきました。ここで足並みをそろえて有利な状況で敵陣を攻めるのは困難でしょう。敵どもも、我が軍が進軍しているのを聞けば、対策を講じるはずですが。輜重は後方に構え、軽騎兵のみで昼夜かけて進軍し、敵どもの不意をつきましょう」

曹操はこの郭嘉の進言を採用し、自ら数千人の精兵を率いて軽い格好で北へ進みました。そして、柳城まであと100キロの白狼山という場所で偶然両軍は遭遇し、戦闘状態になりました。両方の兵力に大差があり、曹操軍は闘志満々で敵の軍隊を大破しました。



◀ 『兵は神速を貴ぶ』 / (Baidu)